

誰一人取り残さない社会の実現に向けて

～持続可能なまちを目指して～

豊能町 まちづくり創造課 課長補佐 大石 登紀子 様

豊能町の概要

豊能町まちづくり創造課の大石です。私は豊能町の旧村地区で生まれ育ちました。豊能町はこじんまりしたまちで、地域の方が身近に感じられるまちです。行政と住民の方の垣根を低くし、住民の方が幸せに暮らせるような持続可能なまちを目指したいと思っています。

豊能町は大阪府の北部、北大阪地域に属し、大阪都心部よりおよそ 30km の位置にあります。東は茨木市、西は兵庫県川西市、南は箕面市、北は能勢町及び京都府亀岡市に接しています。また、町域の約 7 割が山林であり、東部地域は農地、集落や市街地によって構成されています。豊能町の東地区と呼んでいます。また、西部地域は集落と谷間の農地の他、大規模開発による市街地によって構成されています。豊能町の西地区と呼んでいます。交通アクセスについては、鉄道は能勢電鉄が走り、主要幹線道路として国道 423 号線や国道 477 号線があります。平成 19 年に箕面グリーンロードが、平成 30 年には新名神高速道路が開通し、とても便利になりました。

豊能町の人口は 1 万 8,545 人です。人口のピークは平成 7 年、約 2 万 7,000 人でしたが、その頃から比べると約 3 割が減ったことになります。そして、高齢化率は 65 歳以上が 49%となります。全国平均や大阪平均の約 30%弱に比べ、大幅に高くなっています。人口の 77%が居住している西地区では、約 40 年前に大規模開発によってニュータウンが開発され、人口の 90%が戸建て中心のニュータウンに居住しています。

スマートシティの取り組み

まちが抱える課題として、先述の過疎化や少子高齢化のほか、税収入の減少による財政難と自治体マンパワー不足が挙げられます。そして、住民ニーズの多様化や新型コロナ対策があります。その課題を解決するためにスマートシティに取り組んでいます。これまでの仕組みではなく、デジタル技術を取り入れ、財政負担の軽減や業務の効率化を図ることで自治体運営を存続させていく。そのため、住民参加のまちづくり施策が必要だと考えています。

スマートシティの基本コンセプトとして、小さいまちだからこそ住民との距離も近く、住民の声を反映しながらコンパクトスマートシティを目指します。行政だけでは解決できない課題に産官学民で連携しながら取り組み、新たな価値観の創造を目指します。データ連携を通じて未来技術も組み合わせ、利便性の向上を図ります。目指す将来像として誰もがデジタルを活用したサービスが受けられ、多様な幸せが実現できる。また、関係人口も増加し、地域活性に向けたコミュニティがいろんな場面で作られて、住みやすいまちづくりを目指したいと考えています。

本町のスマートシティ実現に向けたこれまでの取り組みとしまして、令和 3 年度に総務省及び国交省の事業に採択されました。令和 3 年 8 月に一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム

ホーム協議会が設立されました。豊能町スマートシティ実現に向けて豊能町を実証・実装フィールドとして取り組んでいただいている企業のコンソーシアムであり、現在、約 70 社の企業が入っております。本日、協議会代表理事の江川様もご登壇されています。また、デジタルデバイドの解消として、よろず相談所の開設やスマホ教室等を開催し、総勢約 550 名の方が参加されました。本日よろず相談所を運営されている一般社団法人とよのいねいの宇都宮様もご登壇されています。また、データ連携基盤の整備としまして、スマートシティアプリ「とよのんコンシェルジュ」が生まれました。そして、令和 4 年度にはデジタル田園都市国家構想事業に採択されました。現在、データ連携基盤を活用した複数のサービスを実装しています。

スマートシティアプリ「とよのんコンシェルジュ」

スマートシティアプリ「とよのんコンシェルジュ」は、いろいろなスマートシティサービスのアプリを 1 つにまとめたものです。スマホの画面にいくつかのアプリがあると探すにも時間がかかり、何のサービスなのかもわからなくなることを整理したアプリとなります。行政サービスや健康管理等も連携したアプリとなり、様々なサービスをつないでいきます。とよのんコンシェルジュを中心とした自治体、企業、住民みんなで育てるスマートシティを目指していきます。とよのんコンシェルジュアプリにキャッシュレスやヘルスケア、見守り、データ連携基盤、観光、モビリティ、防災等の様々なサービスをつないでいきたいと考えております。

2022 年度に進めている取り組み

2022 年度に進めている取り組みとしまして、デジタル田園都市国家構想事業に採択されました。Type3 及び Type2 に採択された自治体は全国で 27 団体あり、そのうち、大阪府内で唯一豊能町が Type2 に採択されました。主なサービス内容は、デジタルデバイドの解消と IT を楽しく活用できる人材育成や、光風台中央公園をデジタル公園に整備するインフラの取り組み、ヘルスリテラシーの向上、デジタル商品券やヘルスケアポイント等による地域経済と地域コミュニティの活性化、最適な移動サービスの検証として AI オンデマンド交通の実証実験の実施に取り組んでいます。

豊能町の目指すスマートシティ

とよのんウォレットでデジタル通貨を使ってお買い物をする事ができます。とよのんウォレットから MyDID でとよのんコンシェルジュにログイン。デジタル通貨でモビリティやヘルスケア等のサービスを利用します。イベント参加でポイントが付与されます。それをとよのんポイントとしてデジタル通貨に変換と、様々なサービスがつながり、町内の地域が循環し、地域活性化や新たなコミュニティが生まれる。こんな将来的なイメージを持っています。

また、目指すスマートシティとしまして、従来からのアナログの活用も欠かせないと思っております。アナログとデジタルが融合し、1+1 が 2 ではなく 3 以上となり、相乗効果が生まれると考えています。掛け合わせることでお互いがウィン・ウィンとなります。例えば、とよのんコンシェルジュアプリでイベントを申し込みます。対面によりイベントに参加します。汗などもかき、運動を体感できる。そして、わざわざ事前に現地に申し込みに行かなくても、アプリで申し込みができると申し込み時間も短縮でき、別の用事に時間を回すことができます。また、参加者と一緒に運動し、対面でお話ができることから新たなコミュニケーションが生まれます。例えば、旅行サイトで温泉の申し込みをします。該当地域のカatalogとクーポンがその後届きます。サイトで検索するために数多くの温泉が検索でき、また、カatalogなど手にとってみて、クーポンがついてくるなど、付加

価値が上がっていると思います。このようにデジタルとアナログをうまく掛け合わせるにより、相乗効果が生まれると思います。

デジタル技術で住民の暮らしが便利になり、そして、産官学民の連携、デジタル、アナログを掛け合わせて新しい価値を生み出し、ボトムアップ型の住民目線のスマートシティを実装したいと考えています。

■このレターは、2022年12月22日に開催いたしました第25回UIIまちづくりフォーラムの内容を要約したものです。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329